西多摩医師会報

創刊　昭和47年7月　　第531号　令和3年1月・2月

『カトレア.ジェンマニー』　森本　晋

目　　次

		頁
1）新年のご挨拶	玉木一弘	2
2）保健所だより	西多摩保健所	5
3）専門医に学ぶ	鈴木潤一	6
4）広報だより	土田大介	9
5）連載企画	小高哲郎	10
6）第19回西多摩医師会臨床報告会のご案内及び演題募集について	学術部	12
7）学術講演会予定	学術部	12
8）理事会報告	広報部	13
9）会員通知・医師会の動き	事務局	18
10）お知らせ	事務局	24
11）表紙のことば	森本　晋	24
12）あとがき	奥村　充	24

http://www.nishitama-med.or.jp/

2021 年　年頭にあたって

会長　玉 木 一 弘

心底より新年のお慶びを申し上げるべきところですが、世界はコロナ禍を乗り越えるに至っておりません。西多摩住民をお支えする者として、会員の皆様同様、複雑な思いに駆られて居ります。

とにかく、今ここにある危機を社会や医療システムで凌ぎ、ワクチンや科学技術が行き渡り、免疫と治療の防波堤を築き上げるまで、感染伝播を遅らせ、志をもって重症化リスクのある方々をお守りすることに尽きるというのが、100 年に一度の新興感染症パンデミックの只中での実感です。

まずもって感染蔓延当初より盾となって奔走されている保健所、公立四病院の皆様はじめ、PCR センター・宿泊療養施設・クラスター発生時支援等への出務、診療・検査医療機関運営等々会員の皆様の献身に感謝申し上げますとともに、今後も手を携え、それぞれが出来る精一杯の医療提供を事態収束まで尽くせればと願っております。また、これまで医療提供者に心を配られ、物資をはじめ数々のご支援をくださった事業者、企業、団体、全ての皆様に御礼申し上げたいと存じます。

さて、年初に当たり、心苦しくも現実に立ち返り申し上げたい事は、西多摩の現実の危機はこれからなのではないかという懸念です。1 万 5 千床を擁する慢性期療養・精神科・介護病床や８百を超える中小の医療・介護・福祉関連事業所等で、重症化リスクのある方々の集団感染を最小限に止め、西多摩の医療提供力の内に収める正念場は、これからなのではないかとの危惧です。

４月の緊急事態宣言を受け、西多摩保健所や自治体と協働しつつ、感染症対応病床連携、PCR 等検査体制の拡充、医療介護福祉施設や事業所でのクラスター発生時対応、在宅療養支援等、西多摩医師会としての防疫と医療提供の陣形構築をめざして参りましたが、持ち得る力に対し襲い来るものの大きさは未知です。今後も下記のような対応力強化を更に図って参りたいと存じますので、会員の皆様の一層のご協力をお願い致します。

【新型コロナ対応に関連する取り組みの方向性】

◆クラスター発生時の集団的行政検査等支援力のさらなる増強

高齢者介護施設、幼稚園、保育園、学校等でクラスターが発生した場合、職員も含め多数の濃厚接触者集団が生じます。また小規模でも同時多発が懸念されます。このような場合、感染拡大防止の迅速な行政検査実施が、保健所医療職のみでは困難な場合が生じています。保健所の支援要請に応じ、診療の合間等での、会員の皆様による行政検査等支援へのご協力を頂きたく存じます。

◆医療・介護・福祉事業所での公的補助（都・市町村等）**による自費検査の適正な実施支援**

地域包括ケアを担う医療・介護・福祉事業所等の感染拡大防止は高齢者防護の要です。都や市町村補助等で、利用者・職員を対象として、必要に応じ行政検査外の新型コロナ自費検査を実施する事業が行われています。陽性者発生時の適正な対応や届け出を担保するためにも、民間業者頼りでなく、医師の管理下で自費検査を、診療・検査医療機関等で実施する体制整備にご協力下さい。

◆「診療・検査医療機関」での発熱者等の診療や新型コロナ関連検査体制の一層の充実

昨年暮れ現在、都との契約により行政検査を行う西多摩圏域の医療機関は、「診療・検査医療機関」、公立病院、PCR センター等を含め 42 ケ所に拡充され、医師会員・保健所・行政で共有されています。これら検査に対応する医療機関に対し、発熱者診療や検査を行っていないかかりつけ医等からの適正かつ円滑な連携の実践、「診療・検査医療機関」の更なる拡充へのご協力を頂きたく存じます。

◆新型コロナウイルスワクチン予防接種体制確保事業への対応

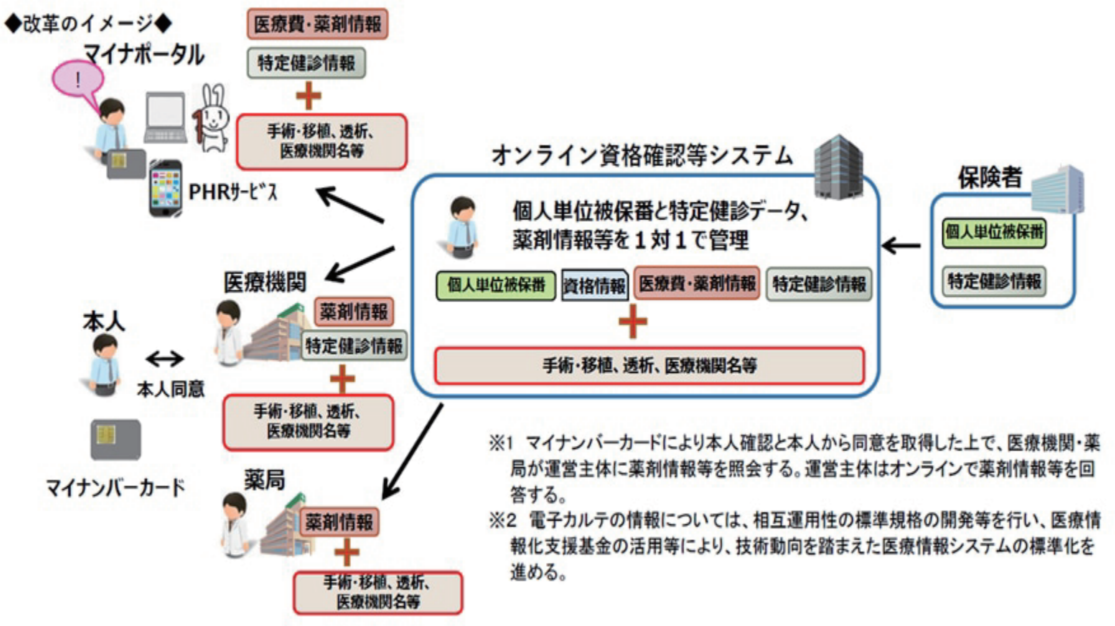
すでに厚労省は、ワクチンの迅速接種体制整備案を発しています（2020 年 10 月 23 日付）。
接種実施主体の都道府県及び区市町村へ、卸売業者との調整、医師会との実施体制・医療従事者接種・医療機関委託契約の調整、必要に応じた接種会場・応急・被害救済体制の確保、予診票・接種券・接種順位等通知、住民相談体制構築、複数市町村等広域接種体制調整等の役割を発しています。
接種回数２回/人で数か月間内での接種完了を目途に、超低温維持ワクチンの迅速接種、1 バイアル当たりの接種回数有効活用等の観点から、受託医療機関には 100 回/日以上の接種を求める等とされており、会員の皆様には、更に多大なご協力を頂くことが想定されます。

【新たな地域医療と医師会の在り方革新の方向性】

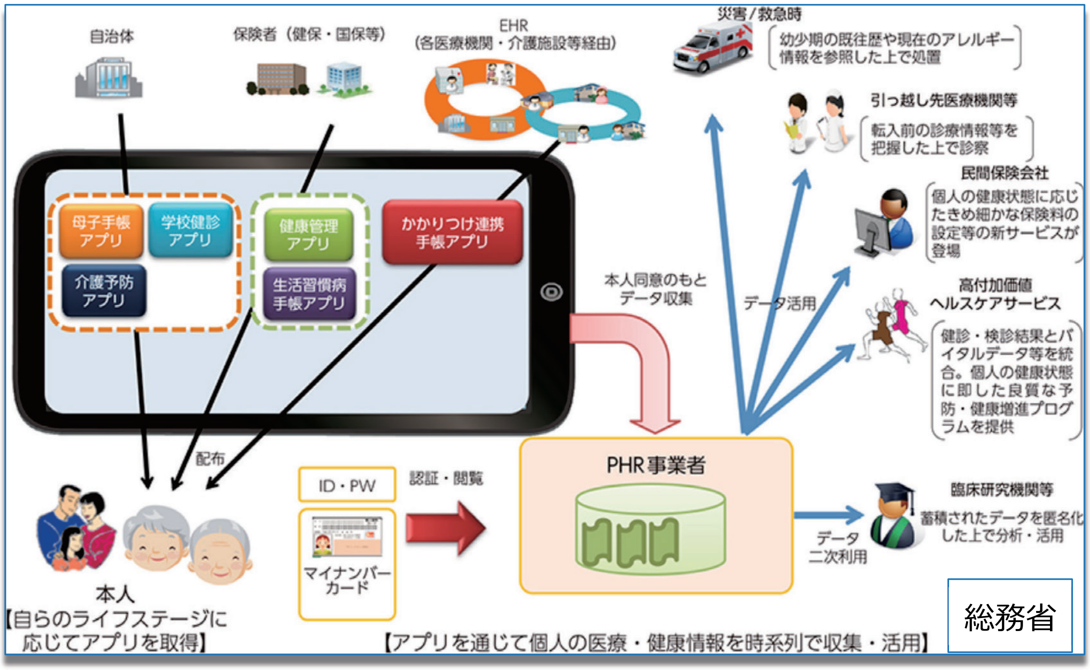
◆医師会業務の ICT を活用した革新

何度か申し上げているところですが、国は今般の危機経験からも、「Society Version5.0」すなわち“革新技術の融合により、経済発展と社会的課題解決を両立する人間中心社会”の構想に基づき、医療システムの根幹として、個々のデジタル化された健診・医療情報（Personal Health Record）とマイナンバーカードや日医医師資格証との連動、電子処方箋導入、オンライン診療拡充、健診・レセプト等ビッグデータの活用を、「データーヘルス集中改革プラン」として、実現を加速することを表明しています。新興感染症パンデミック時や災害時等、平常の経済社会活動や地域医療に支障が生じた場合の、迅速かつ臨機応変の医療提供対応の基盤となるものと期待されます。

医師や医師会は、そうしたシステムにおいても、協働意思決定に基づく患者の生命と健康の堅持等ヒポクラテス以来の「変えてはいけない医療提供理念」を守り、「変えなくてはならない医療提供システム」は積極的に革新し、「社会的共通資本としてのより良き医療」の実現に寄与せねばならないと考えます。そのための“新たな医師会様式”として、意思決定・情報伝達等の ICT 化を立ち遅れることなく推進し、電子カルテネットワーク・多職種ネットワーク、医療介護情報連携、遠隔会議や Web 研修会の開催等を一層拡充したいと考えます。



出所：令和２年７月３０日　厚生労働省「新たな日常にも対応したデータヘルスの集中改革プランについて」



◆医師会事業継続計画（BCP）の強化

本来ならエボラ出血熱、SARS、豚インフル等の経験を踏まえ、“新興感染症パンデミック”は災害対策・BCP 上、“想定内の事態”であり、「インフルエンザ等新興感染症特別措置法」が定められ、対応が地域圏域レベルで議論されてはいました。

しかし現実には、今そこにある危機に、今ここに持てるはずの様々なシナリオを、国や社会システム、医療介護提供に於いても十分に発揮するに至らず、降り注ぐ行政通知、報道、風評、不安の渦の中で、その場その時点の対応に追われ続けました。ペストやスペイン風邪の時代とは異なる環境変化やグローバル化による感染症伝播の速さを踏まえると、新興感染症パンデミックは、もはや 100 年に一度のことではないと想わざるを得ません。

震災等自然災害医療体制を主としてきた医師会 BCP においても、今般の経験を活かし ICT 技術等も駆使し、平時の医療提供体制を、新興感染症パンデミックに対応した陣形に瞬時に変換し立ち向かい得るシステム、院内・施設内から在宅療養支援事業所に至る感染拡大防御や発生時対応等、圏域内における医療介護総合提供の維持継続に関する、デスクプランではない事前計画を策定し、かつ訓練を重ねたいと念願します。

そして、これまで取り組んで来た、認知症・精神疾患連携、フレイル予防、摂食嚥下機能支援とともに“五つのバリアフリー活動”の一環として上記を確立し、医師会業務の標準化・財政改革と併せ、コロナ禍を乗り越えた証として次世代に引き継げますよう、会員の皆様の更なるご協力を仰ぎ、新年のご挨拶と致します。

保健所だより

1. 西多摩圏域感染症発生動向

2020年第40週～2020年第48週（9/28–11/29）の間に届出された感染症について、管内（青梅・福生・羽村・あきる野・瑞穂・日の出・檜原・奥多摩）の医療機関より以下の報告がありました。

（1）全数報告疾患　届出件数

〈二類感染症〉

・結核　６件　肺結核　3件、頸部リンパ節結核 2件、無症状病原体保有者1件。
年齢は20代2件、60代1件、70代2件、80代1件。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症４件

血清型・毒素型はO157・VT1VT2 2件、O157・VT2　1件、O不明・VT2　1件。
年齢は20代2件、40代1件、90代1件
推定感染地は東京都4件、推定感染経路は接触感染2件、経口感染1件、不明1件。

〈四類感染症〉

・レジオネラ症1件　肺炎型、年齢は70代、推定感染地は不明、推定感染経路は不明。
・梅毒２件　早期顕症梅毒Ⅰ期2件、年齢は30代1件、40代1件、性別は男性2件、推定感染地は国内2件、推定感染経路は性的接触2件。
・百日咳１件　年齢は10代、ワクチン接種歴は1回。

〈五類感染症〉

・E型肝炎１件　年齢は50代

〈指定感染症〉

・新型コロナウイルス感染症　121件

（2）定点報告疾患　届出件数

定点種別	疾 患 名	第40週	第41週	第42週	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週	第48週
		9/28～	10/5～	10/12～	10/19～	10/26～	11/2～	11/9～	11/16～	11/23～
インフルエンザ	インフルエンザ（外来）									
小児科	RS ウイルス感染症									
	咽頭結膜熱			1		1	1		1	
	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	5	3	5	3		2	5	2
	感染性胃腸炎	7	13	12	11	10	10	12	21	14
	水痘		1		1		3			
	手足口病		1		1	1	2			
	伝染性紅斑									
	突発性発しん	6	4	3	3	2	2	2	1	4
	ヘルパンギーナ					1				1
	流行性耳下腺炎						1		1	
	不明発疹症									
	川崎病									
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎									
基幹病院	細菌性髄膜炎									
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎									
	クラミジア肺炎									
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）									
	インフルエンザ入院									
	合　　計	**18**	**24**	**19**	**21**	**18**	**19**	**16**	**29**	**21**

2. 都内で注目されている定点把握対象疾患　　第 48 週（11/23–11/29）時点

対象疾患全般で定点当たり報告数が例年並み以下になっています。

3. 情報提供　　新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第4版　2020年12月2日　診療の手引き検討委員会
https://www.mhlw.go.jp/content/000702064.pdf
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）病原体検査の指針・第2版　2020年11月10日　国立感染症研究所ほか
https://www.mhlw.go.jp/content/000696201.pdf

文責:西多摩保健所保健対策課

専門医に学ぶ 第146回

公立阿伎留医療センター 小児科　鈴木 潤一

【症　例】 13歳　男子

【主　訴】 尿糖陽性

【現病歴】 201X年学校検尿で尿糖陽性の指摘あり。二次検査で尿糖陰性であり、経過観察となっていた。同年秋頃より多飲多尿を認めていた。201X+1年5月の学校検尿で尿糖（4+）あり、近医を受診し随時血糖値 260 mg/dl、HbA1c 8.8%を認め、精査目的に紹介受診した。

【家族歴】 糖尿病なし。

【妊娠分娩歴】 在胎39週6日頭位自然分娩にて出生。出生体重2070g（Small for Gestational Age : SGA）、仮死なし、黄疸なし。他、周産期に異常指摘なし。

【既往歴】 2歳時に気管支喘息あり、現在は発作なく定時薬なし。

【初診時身体所見】

身長　147.1 cm（−1.80 S.D.）

体重　37.5 kg（−1.36 S.D.）　肥満度:−9.9%

意識清明、呼気アセトン臭なし

顔貌:顎が小さく逆三角形　耳介が大きい

眼球結膜:黄染なし　眼瞼結膜:貧血なし

口腔内:乾燥なし、歯列矯正中

胸部:呼吸音は清　心雑音なし

腹部:平坦・軟　腸蠕動音正常　肝臓は触知せず

深部腱反射:正常　左右差なし　下肢振動覚:遅延なし

二次性徴:Tanner 3−4期　精巣容量両側 25 ml

皮膚所見を図1、2に示す。

【初診時検査所見（早朝空腹時）】

WBC 5100/μl, RBC 479×10^4/μl, Hb 14.1g/dl, Ht 41.6 %, Plt 26.7×10^4/μl, AST 13 U/l, ALT 12 U/l, LDH 200 U/l, AMY 49 U/l, BUN 10.3 mg/dl, Cr 0.38 mg/dl, T-cho 119 mg/dl, HDL-C 39 mg/dl, TG 106 mg/dl, Na 138 mEq/l, K 4.3 mEq/l, Cl 104 mEq/l, Ca 9.0 mg/dl, TP 6.6 g/dl, 血糖260 mg/dl, HbA1c 8.8 %, グリコアルブミン 20.1 %, 総ケトン体 41.3μmol/l, アセト酢酸 21.7μmol/l, 3βヒドロキシ酪酸 19.6μmol/l, インスリン 433.8μU/ml, Cペプチド 18.2 ng/ml, GAD抗体（RIA法）＜0.3 U/ml, インスリン抗体 ＜0.4 %.

【問】身体所見および検査所見から考えられる病態は何か。

図1

図2

【解答】

高インスリン血症を伴う高度なインスリン抵抗性の存在

【解説】

症例は空腹時血糖およびHbA1cの値から糖尿病である。しかし、肥満は認めず典型的な小児期発症の２型糖尿病とは身体所見が異なる。皮膚所見では、非肥満であるにもかかわらず項部および腋窩を中心著明な黒色表皮腫を認めている。糖尿病にともなう黒色表皮腫は、インスリンを介して表皮におけるインスリン様成長因子（IGF）受容体を活性化し、線維芽細胞成長因子（FGF）によって線維芽細胞の増殖と表皮角化の増強によって生じると考えられており、高インスリン血症の存在を示唆する。本症例においても、空腹時検査所見でインスリン高値が認められている。

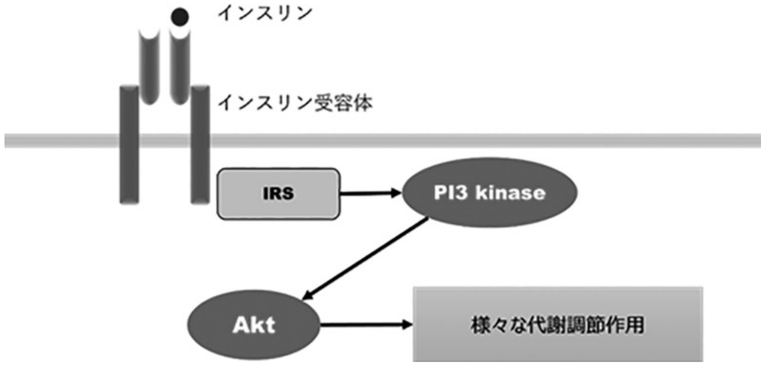
非肥満で高インスリン血症を呈する糖尿病であることから、インスリン抵抗性を評価する目的でSteady state plasma glucose（SSPG）測定およびInsulin tolerance test（ITT）を行った。SSPGはソマトスタチンやソマトスタチンアナログにより内因性インスリン分泌を抑制した状況で、一定量のインスリンとブドウ糖を持続静脈注射し、恒常状態における血糖値（SSPG値）をインスリン抵抗性の指標とする方法である。Glucose Clearance=6000/SSPG120分値（基準範囲：54～160 ml/kg/分）で評価を行う。本症例はSSPG開始後120分での血糖値が283㎎/dlでGlucose Clearanceが21.2 ml/kg/分となり高度なインスリン抵抗性を示した。また、ITTはインスリン負荷による血糖低下や、それに伴うグルカゴン分泌反応から、インスリン感受性をみる方法である。早朝空腹時に即効型インスリン（0.1単位/kg）を静注し、注射後、血糖が最低になるまでの時間をt（分）、空腹時血糖値と最低血糖値との差をΔB（mg/dl）とし、Insulin Sensitivity Index=ΔB/t（基準範囲:1.93～3.93）を計算して評価する。本症例においては

Insulin Sensitivity Indexが1.7を示しており、インスリン感受性の著しい低下を認めていた。

当初、高度なインスリン抵抗性認めたことからインスリン受容体異常症を疑い遺伝子検索を行ったが、責任領域にバリアントは認めなかった。治療は高度なインスリン抵抗性を有する糖尿病に対してメトホルミンおよびピオグリタゾンの内服を開始し、その後は一時的に血糖の悪化は見られたものの比較的良好な血糖の経過であった。糖尿病の診断から数年後に難治性インスリン抵抗症に対する遺伝子検査を行い、PIK3R1のexon15にc.1945C＞T, p.Arg649Trp のミスセンスバリアントを認め、SHORT症候群による糖尿病と診断した。現在はSGLT2阻害薬を追加して、良好な血糖コントロールが得られている。

SHORT症候群の責任遺伝子であるPIK3R1はインスリン受容体のシグナル伝達にかかわるphosphatidylinositol–3 kinase（PI3K）をコードする。インスリンがインスリン受容体に結合するとインスリン受容体βサブユニットのチロシン残基の自己リン酸化が生じ活性化する。活性化したインスリン受容体はinsulin receptor substrate（IRS）と呼ばれる蛋白をリン酸化することで細胞内へシグナルが伝達される。IRSがリン酸化されるとPI3KがIRSと結合して活性化して、その下流のセリン/スレオニンキナーゼであるAktが活性化する。Aktは様々な細胞内基質をリン酸化することによって、グルコースの取り込み、糖新生抑制、グリコーゲン合成、脂肪分解抑制などといったインスリンの代謝調節作用を発現する。SHORT症候群においては、PIK3R1の変異によりインスリン受容体以降での細胞内シグナルが伝達されず、高度なインスリン抵抗性を呈する。

図3. インスリンの細胞内シグナル伝達



本症例のSHORT症候群やインスリン受容体異常症をはじめとする難治性インスリン抵抗症に対してSGLT2阻害薬の有用性の報告が散見されるようになり、現在、SGLT2阻害薬による医師主導型治験が開始されている。本症例のように糖尿病の診断当初は確定診断がついていなくても、遺伝子検索を行うことによって診断が確定し、その後の治療および予後に適切に介入できるケースも存在する。非典型的な所見を呈し、かつ高度なインスリン抵抗性を示す症例においては難治性インスリン抵抗症に伴う糖尿病を鑑別として念頭に入れる必要がある。

コロナとニオイ

青梅市　土田　大介

子供の頃の記憶の1つに「はいしゃ(歯科)」における魚の焦げたようなニオイがあります（あくまで個人の感想です)。歯を削ったときに生じる焼けたカルシウムや消毒剤が原因のようですが、現在通っている歯科ではさほど気にならないので不思議な感じがします。一方、当院の話になりますが、最近はコロナ禍による感染予防のため以前にも増してアルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの消毒剤を用いることが増え、換気や空気清浄機を使用しても残留するニオイが気になるようになりました。嗅覚と記憶との関連はよく知られていますが、ニオイが元で診療所に対してあまり変な印象は持たれたくないところです。

消毒剤の臭いとしてまず挙げられるのはアルコール臭でしょう。無機質的なものから日本酒の香りがするものまで、消毒用アルコールにニオイの違いを感じられるのもこのご時世ならではでしょう。診療所ではセンサー付きの空気清浄機を用いていますが、少し離れたところでアルコールによる手指消毒をしても反応し、一度ニオイランプがつくとなかなか消えないのでニオイのしつこさを感じます。

一方で、スーパー等に入る際にアルコール消毒をしてもニオイがないと効いているのか不安になってしまうくらい、安心感の証にもなっています。

次に気になるのは次亜塩素酸ナトリウムによる塩素臭です。今まではノロウイルス対策用に次亜塩素酸ナトリウムを用いる程度でしたが、昨年は消毒用アルコールの代用として使用頻度が増えました。清拭の際には十分に換気をして、使用後に水拭きをすることになっていますが、それでもアルコール消毒に比べて更にニオイが長く残留している気がします。塩素は汚れに反応して発生するため前洗いをすることにより塩素の発生を抑えられると言われていますが、消毒作業になかなか時間をかけられないのが現実です。ただ、高濃度の塩素ガスは肺損傷を来たすので十分な換気は必要であり、今冬は寒さ対策にもより一層頭を悩まされることになりました。塩素臭対策としては、厚生労働省や独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)が推奨している界面活性剤や次亜塩素酸水を用いても良いのかもしれません。

次亜塩素酸水に関しては、厚生労働省が「人がいる環境に、消毒や除菌効果を謳う商品を空間噴霧して使用することは、眼、皮膚への付着や吸入による健康影響のおそれがあることから推奨されていません」(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku_00001.html)とコメントしているのに対し、NITEは「(次亜塩素酸水の）噴霧利用の是非について何らかの見解を示した事実はございません」(https://www.nite.go.jp/information/osirasefaq20200430.html）と述べており、空間噴霧に対する考えは微妙なところのようです。飛沫感染または空気感染するウイルスに対しては「空間除菌」(ウイルスは菌ではありませんが）したい気持ちはありますが、浮遊ウイルスには換気を、付着ウイルスには消毒剤による清拭が一般的な対応と思われます。

昨年、奈良県立医科大学が世界で初めてオゾンによる新型コロナウイルス不活化を確認し

たことを報告しています。研究成果によるとCT値330（オゾン濃度6ppmで55分間曝露）では1/1,000～1/10,000まで不活化、CT値60（オゾン濃度1ppmで60分曝露）では、1/10～1/100まで不活化するようです。実験には付着ウイルスを用いており「空間除菌」の実験ではありませんが、液体である消毒剤よりは期待します（気体だけに）。ただ、オゾン濃度1～2ppmで「2時間曝露で頭痛、胸部痛、上部気道の渇きとせきが起こり、 曝露を繰り返せば慢性中毒にかかる」（オゾンハンドブック）とされており、前述の濃度では有人環境下で使用することはできません。2年前に当欄で空気清浄機の抗ウイルス性能について述べた際にはオゾンは安全面での確認がとれないため評価を割愛しましたが、今回の報告を受け無人環境下での使用を目的に、オゾン発生機を購入し使用してみました。待合室でCT値60を目安（オゾン濃度2ppmで30分曝露）にオゾンを発生させ、その後数時間の換気を行ないましたが、オゾン臭がかなり強く残るため使うタイミングは限られてきそうな印象でした（オゾンは0.1ppmでも明らかな臭気を感じるとされています）。また、オゾン臭の印象が強くなったことで、一部の空気清浄機や屋外に干して紫外線を浴びた洗濯物からもオゾンが発生していることに気づかされ、オゾン臭も診療所に付着するニオイの1つとなっていることを実感しました。ただ、低濃度のオゾンには脱臭効果があるので、他のニオイを打ち消すのに用いることも可能です。

新型コロナウイルス自体にニオイはなく、また、新型コロナウイルスに感染することにより嗅覚障害をきたすことがあるのは周知の通りですが、その感染拡大予防として用いられる消毒剤等のニオイに気を使うことになるとは何たる因縁でしょうか。

連載企画

会えなくなった子供達～『犬になったんだよな』

あきるの杜きずなクリニック　小高　哲郎（こだか　てつろう）

（連載にあたり）
あきる野市五日市に「あきるの杜きずなクリニック」を開院して、2年半が過ぎました。この夏より、あきる野医師会下村会長の推薦により、西多摩医師会の広報委員に任命していただきました。この度、連載企画を担当させていただくことになり、大変光栄なことと感じております。コロナの猛威の中、「小児外科医としての私」という視点から感じたことを綴らせていただくこととしました。

我が家で犬を飼い始めたのは、昨年の夏であった。開業から1年経っても不慣れな診療の日々を過ごしていた私は、娘の夏休みでも相手をしてあげられることができずにいた。そんな中、娘が足を怪我して、しばらく歩けない日が続き、娘を何とか元気にさせようと、犬を飼い始めたのだ。人懐こいトイプードルで、最近では、だいぶ私にもなつき、顔をなめてきたりする。そんなひととき、ふと、小児外科医として勤務した日々を思い出す。

小児外科医として歩み出したのは、一般外科研修4年間を終えた平成13年の春であった。大学在学中は小児科か内科に進もうと考えていたにもかかわらず、最終段階になって三井記念病院

の外科研修プログラムを選んだ。外科医になってすぐ、自分は手術ばかりやる外科医よりは、外科手技もできる総合診療医が向いているのではないかと思うようになった。そんなこともあり、子供も見られる外科医になりたくて、小児外科を選んだ。小児外科の研修を始めた当初は、毎日、病棟の子供達の笑顔を見るのが楽しみで、「子供達のために働ける」ことにやりがいを感じていた。また、手術についても積極的に勉強し、人よりも積極的に手術その他の治療に関わった。治療した子供達が元気に退院していく姿を見ると、本当にうれしかった。特に、小児がんの子供達は、手術、化学療法、術後経過など常に緊張をもって対応していたことにより思い入れも強かった。子供達、その両親に寄り添い、少しでもその涙、苦しみを分かってあげたかった。やがて東大病院の助教、埼玉医科大学病院・国際医療センターの講師・診療部長となり、執刀する機会が増えると、子供達への思い入れは更に強くなっていった。

ただ、全てがいい結果とはならなかった。ある子供は生まれつきの複雑奇形のために、またある子供は診断が遅れたために病気が進行し、不幸な結果となった。自分が方針決定する立場で、迅速に判断しているつもりではあったが、力及ばず、無力さを感じさせられた。特に、小児の進行がんの手術をするときは、見える腫瘍は切除できるが、境界部分では、腫瘍の遺残は絶対あってはならないものの、正常組織は残してあげたいし、いつも葛藤の連続であった。手術は多くの場合成功したが、数年後に再発したのを聞くと、「あのとき1mm外側で切離して、再発しなかったかな」なんて後悔したりした。例えば、以下のようなことがあった。

1．女児。骨肉腫術後の肺転移で左肺切除を行ったが、1か月後のPET検査で肺門部に集積を認めた。化学療法が思うように効かず追加切除を検討していたが、1か月後には切除不能な状態となってしまった。小学校の入学式には出られたが、1週間ほどで会えなくなってしまった。
2．女児。進行神経芽腫で、化学療法の後に腫瘍切除を行った。大動脈周囲リンパ節を見える範囲で切除し、術後骨髄移植なども行ったが、1年後に再発した。いつも「小高先生」と元気に呼んでくれていた彼女の笑顔は忘れられない。
3．女児。進行神経芽腫で、化学療法の後に腫瘍切除を予定していた。しかし、腫瘍が十分に縮小せず、他の医師と相談の上、手術を断念した。その決定を伝えたときの母親の涙、子供の無邪気な笑顔が頭に残る。

子供達に待ち受けていた悲しい結末を目にするたびに、「僕は君にとっていい主治医だったかい」と、自分の記憶の中の子供達に問いかけていた。今でも、病気を克服して大きくなった子供達からの手紙が届くたびに、二度と会えなくなってしまった子供達のことも思い出す。

最近、テレビで『猫』という曲が流れているのを聞いた。『猫になったんだよな、君は』というフレーズが印象的で、別れた彼女が、猫になって戻ってきてくれることを願う内容なのだが、それが妙に僕の心に響いた。「もしかしたら、亡くなった子供達が、犬になって会いに来てくれているのかな」なんて思えてくる。絶対にそんなことないと分かっているのだが、我が家のトイプードルを抱きしめながら、二度と会えなくなってしまった子供達のことを想うと、今日もまた頑張れるような気がした。

第19回西多摩医師会臨床報告会のご案内及び演題募集について

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
第19回西多摩医師会臨床報告会を下記の要領で開催致します。
今回のテーマを『新型コロナウイルス感染症の検査・治療等』とさせていただきます。
つきましては、日常診療でお忙しいとは思いますが、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

日　　時 : 令和3年2月18日（木）　午後7時30分から
開催場所 : 公立福生病院　多目的ホール

演　題　募　集

西多摩医師会会員の皆様の臨床での貴重な経験を発表してください。
演題名および抄録を西多摩医師会へFAXしてください。

発 表 者 : 西多摩医師会会員に限ります。
コメディカルのご発表は会員との共同発表になります。
発表希望者が多数の場合、次回発表とさせていただくことがあります。

発表内容 : 症例報告、臨床研究、医院の運営方法、その他会員が聞いてためになることなら何でも構いません。

発表時間 : 1演題10分でご発表いただき討論を含めて15分の予定です。

応募要領 : 発表内容を400字程度にまとめてFAX又はメールをお願いします。
発表者の抄録は、医師会会報に掲載します。
尚、スライド・パワーポイント等使用を明記して下さい。

募集期間 : 令和2年12月14日（月）～令和3年1月20日（水）

（西多摩医師会　FAX 0428-24-1615・0428-23-2160）
E-MAIL ishi-kai@nishitama-med.or.jp

◇学術講演会予定

令和 2. 12.18

開催日	開始～終了時間	会 場	単位数	カリキュラムコード	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
1.13（水）	19:00～20:00	【WEB講演】	1	24	高血圧　Web　Seminar 【特別講演】 「ミネラルコルチコイド受容体が活性化する高血圧とは？」	東京女子医科大学 高血圧・内分泌内科 教授・講座主任 市原 淳弘 先生
1.25（月）	19:00～20:00	【WEB講演】	1	42	(仮題)「不整脈薬物治療の潮流～不整脈ガイドライン2020を読み解く～」	日本大学医学部付属板橋病院 循環器内科 主任教授　奥村 恭男 先生
2.1（月）	19:00～20:00	【WEB講演】	1	60	「神経障害性疼痛に対するアプローチ～ミロガバリンへの期待～」	岡山大学病院　整形外科 助教　鉄永 倫子 先生
2.8（月）	19:00～20:00	【WEB講演】	1	15	「食塩摂取量を指標とした高血圧診療とMRBの意義」	製鉄記念八幡病院 理事長･病院長 土橋 卓也 先生
2.15（月）	19:20～20:30	【WEB講演】	1	26	【特別講演】 「乾癬の診断と治療（仮）」	帝京大学医学部 皮膚科学講座 教授　多田 弥生 先生

理事会報告 ★ Information

10月定例理事会　令和2年10月27日（火）　西多摩医師会館

（出席者：玉木・江本・進藤（幸）・土田・宮城・古川・進藤（晃）・田中・井上・下村・鈴木・吉田・中野・野本）

【1】報告事項

（1）都医地区医師会長連絡協議会報告

資料に沿い、10/16に開催された標記協議会の伝達事項等について説明報告された

（2）各部報告

総務部：○行政の意向を確認、「医療懇」の開催が2月6日で決定した件
○参考資料により、厚労省による「新型コロナウイルスワクチンの接種体制確保に係る留意事項」についての情報提供

在宅医療委員会：参考資料により、12/9に多職種によるWeb会議「西多摩地域 コロナ禍における在宅医療」を開催する件

（3）地区会報告（各地区理事）：

青梅市

福生市　10/14福生ブロック災害時救護所に係る会議開催
10/16、2市1町のPCR検査センターに係る会議開催

羽村市

あきる野市　10/26年末年始の発熱外来を含む体制等に関する会議開催

瑞穂町

日の出町　資料により、「在宅要介護者の受入体制」に係る行政（日の出町）の事業実施に向けた考え方・動向について

奥多摩町

（4）その他報告:

○都医第9回地域包括ケア委員会（10/22進藤晃委員）
○都医第11回病院委員会（10/23進藤晃委員）
資料により、上記2件の委員会の内容・状況等について報告

【2】報告承認事項

（1）入退会会員、会員異動について

資料により、準会員３名の入会が紹介・報告され承認された、また、準会員５名の退会が報告された

― 承認 ―

【3】協議事項

（1）新型コロナウイルス対応外来と検査のこれからについて

資料により、標記の体制整備等に係る経緯・状況及び保健所からの情報による今後の行政の対応等が説明され、各地区における状況・課題等の情報・意見交換が行われた。認識された課題等への対応等各地区での協議・検討を進め、次回理事会等で情報交換・共有を通じて体制整備を進めることとした

【4】その他

特になし

11月定例理事会　令和2年11月10日(火)　西多摩医師会館

(出席者 : 玉木・江本・進藤（幸）・土田・宮城・古川・進藤（晃）・田中・井上・下村・鈴木・吉田・中野・野本)

【1】報告事項

(1) 各部報告

経理部：資料により、2020年度中間期（9月）の収支状況等について報告

公衆衛生部：資料により、行政からの「令和3年度国民健康保険特定健康診査に係る委託契約単価」に関する依頼について報告

(2) 地区会報告（各地区理事）：

青梅市　11/2より休日診療所における発熱外来・PCR検査を新設の仮設プレハブにて開始

福生市

羽村市

あきる野市

瑞穂町

日の出町

奥多摩町

(3) その他報告

○「診療・検査医療機関」として指定を受けた医療機関名簿について

標記機関の名簿が示され、内容等を紹介・確認、当会会員専用のホームページへの掲載が報告された

【2】報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

資料により2件の異動届が紹介・報告された

【3】協議事項

(1) 東京都医師会 AED 講習会の開催について

標記講習会について、役員で参加可能な方は事務局を通じて参加願いたい旨の案内

(2) 主治医意見書記載に係る対価について

資料により標記対価（現状）が示され、令和3年度以降の対価につき地区医師会の意見が求められ回答案につき協議。意見なしとして回答することが提案され可決承認された

— 可決承認 —

（3）インフル＆コロナ同時流行期の新たな診療体制について

資料により、標記に係る今までの経緯・今後の体制・流れ等について確認及び発生が予想される課題等について説明。各地区における状況・課題等について意見交換

【4】その他

特になし

11月定例理事会 令和2年11月24日（火） 西多摩医師会館

（出席者 : 玉木・江本・土田・宮城・古川・井上・鈴木・中野・野本）

【1】報告事項

（1）都医地区医師会長連絡協議会報告

資料に沿い、11/20に開催された標記協議会の伝達事項等について説明報告された

（2）各部報告

公衆衛生部：○12/2に学術部と合同で新型コロナに係る講演会を開催する予定について

○令和3年度国民健康保険特定健康診査に係る委託契約単価について、事務費0円は根拠なく不自然であり5～6百円を計上すべきことを行政に具申・要請している件について

（3）地区会報告（各地区理事）：

青梅市

福生市　11/17理事会開催

羽村市

あきる野市

瑞穂町

日の出町

奥多摩町

（4）その他報告 :

○「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業（医療分）」の東京都国民健康保険団体連合会を通じた申請について

（標記に係る都医からの通知内容等については、医師会長連絡協議会報告にて報告）

○新型コロナウイルス感染症に係る宿泊療養事業への医師派遣につい資料により、標記に係る都医からの通知内容について説明報告

【2】報告承認事項

（1）入退会会員、会員異動について

資料により、準会員１名の入会申請が紹介され承認された。また、準会員１名の退会が

報告された

― 承認 ―

【3】協議事項

（1）年末年始における地域の医療体制確保のお願いについて

資料により、標記体制確保に係る依頼内容が説明され、行政の対応等を含めた各地区の情報等について情報交換。12/29～1/3における休日診療とは別に、発熱患者等に対応・協力する「診療・検査医療機関」についてアンケート調査することとした

（2）「令和２年度西多摩地区医療懇話会（案）」について

資料により、標記懇話会の開催案が紹介・説明され、会の流れ・内容等について承認され、その他の細部については次回理事会時点での状況等を確認の上再度検討することとした

（3）西多摩医師会共催名義の使用について（申請）

資料により、標記共催名義の使用申請に係る経緯・内容等が説明され、当会名義の使用が決議承認された

― 可決承認 ―

【4】その他

特になし

12月定例理事会　令和2年12月8日（火）　西多摩医師会館

（出席者：玉木・江本・進藤（幸）・土田・宮城・古川・進藤（晃）・田中・井上・鈴木・吉田・中野・野本）

【1】報告事項

（1）各部報告

公衆衛生部：特定健診に係る事務費・検査項目に関する行政への具申・要請については回答が無かった件について

（2）地区会報告（各地区理事）：

青梅市

福生市　12/4に2市1町のPCRセンターに係る会議開催
　　12/9福生ブロックの災害時救護所に係る会議予定

羽村市

あきる野市　12/11に理事及び「診療・検査医療機関」とで年末年始等に係る会議を予定

瑞穂町

日の出町

奥多摩町

（3）その他報告

特になし

【2】報告承認事項

（1）入退会会員、会員異動について

資料により、正会員1名の退会及び1件の異動届が紹介された

（2）令和３年度学校医等各種報酬及び予防接種委託料について（要望）

資料により、標記に係る行政の要望事項等につき報告・説明、要望3項目についての今後の交渉方針として

（1）学校医等の各種報酬については認める

（2）予防接種委託料の西多摩単価については今年度と同様とする

（3）予防接種委託料の消費税の取扱いに係る要望については認めない

以上による交渉案が示され承認された

― 承認 ―

（3）令和２年度西多摩地区医療懇話会について

資料により、標記に係る最終案について説明され承認された

― 承認 ―

【3】協議事項

（1）令和３年度羽村市立学校学校医の推薦について（依頼）

標記依頼につき、羽村地区より各学校とも元年度と同様（資料）の先生を推薦することが提案され可決承認された

― 可決承認 ―

（2）「糖尿病性腎症重症化予防事業への取組にかかる要望書」について

資料により、標記に係る行政からの要望に関し説明・紹介され、要望内容を受け入れることが可決承認された

― 可決承認 ―

（3）集団的行政検査について

（4）公的補助による自費検査について

（5）年末年始の発熱患者等の診療体制確保について

上記3・4・5の資料により行政等からの依頼等について紹介・説明、「集団的行政検査」及び「公的補助による自費検査」については会員にアンケートを取ること、「年末年始の発熱患者等の診療体制確保」については会員に協力依頼文書を発信することが提案され承認された

― 可決承認 ―

（6）情報開示に伴う秘密保持に関する契約書（西多摩地域脳卒中医療連携検討会）の締結について

標記の秘密保持に関する契約書が7月に満了していることから継続契約について協議、7月4日付にての契約が可決承認された

― 可決承認 ―

【4】その他

特になし

会員通知

○会報11–12月号
○宿日直表(青梅・福生・阿伎留)
○令和２年度第３期西多摩医師会諸会費請求書
○学術講演会(11/17,11/18,11/25,11/26,11/30,12/1,12/21)
○学術講演会12/1開催方法変更について
○コロナ短信№14「インフル＆コロナ同時流行期の新たな診療体制について」
○　〃　№15「介護施設配置医、学校医、園医、診療・検査医療機関等を担う会員の皆様へご協力のお願い」
○　〃　№16「介護施設配置医、学校医、園医、診療・検査医療機関開設医、そして全ての会員の皆様へ、先日のお願いに関するアンケートです」
○訃報（坂本保己先生）
○訃報（渡邉哲哉先生ご尊父様）
○新型コロナウイルス感染症対応医療従事者支援制度について
○独立行政法人医薬品医療機器総合機構が実施する健康被害救済制度に関する集中広報の周知について
○麻薬及び向精神薬取締法施行規則の一部を改正する省令の一部の施行について
○令和２年度インフルエンザ流行期に備えた発熱患者の外来診療・検査体制確保事業及び電話相談体制整備事業のご案内について
○インフルエンザの診断と治療について（再周知）
○ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種の対象者等への周知について
○医療機関での診察用放射線の安全利用の研修（動画を用いた研修）のご案内について
○東京都肝疾患診療連携拠点病院が実施する研修の御案内について
○「東京在宅医療塾」新型コロナウイルス感染症対策特別講演会の開催について
○国立成育医療研究センターが実施する講習会の御案内について
○日医かかりつけ医機能研修制度　令和２年度応用研修会（DVD視聴）の開催について
○季節性インフルエンザワクチンの供給等について
○西多摩保健所「東京都発熱相談センター」を開設いたします
　都民の皆さまへ　～新型コロナウイルス感染症が心配なとき～
○令和２年度「医療保険講習会・事務講習会」並びに令和２年版「医療保険の手引」（第30次改訂版）の送付について
○都内診療・検査医療機関における新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）の利用に関する対応について
○検査件数等報告の新システム導入について
○「新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置による休暇取得支援助成金」の支給要件の見直し及び「母性健康管理措置等に係る特別相談窓口」の開設に関する周知へのご協力のお願いについて
○令和２年度 東京都在宅療養推進研修・在宅療養推進シンポジウム合同開催
○「新型コロナウイルス感染症における在宅療養者・家族の希望に沿った支援のあり方」の開催について
○令和２年度第４回難病医療ネットワーク医療従事者向け研修の実施について
○第84回（令和２年度・第２回）准看護師卒後教育講習会の開催について
○東京都医療連携手帳改訂の周知について
○青梅市立総合病院　緊急事態措置の解除について
○インフル・コロナ同時流行期の新たな診療フロー
○インフル・コロナ同時流行期対応諸通知纏め資料集かかりつけ医用
○配置医「高齢者施設における新型コロナウイルス感染症対策強化事業」の実施
○「がん治療連携指導料」の施設基準届けに係る連携保険医療機関の新規追加及び届出内容の変更等について（令和３年１月１日算定）
○東京都感染症予防×フレイル予防で健康な生活習慣を維持しましょう
○青梅市立総合病院だより

○労災診療費算定基準自賠責保険診療費算定基準地方公務員災害補償制度の手引き
○「がん登録等の推進に関する法律」に基づく指定診療所の募集について
○医療機関の必要な受診に関する周知依頼について
○厚生労働省「もしかして控えていませんか?」
○2020年度第3回虎の門病院肝疾患診療連携研修会
○令和2年度最低賃金に関する周知・広報の実施等について
○西多摩保健所だより
○院内感染を防ぐために私たちに出来ること
○N–ニトロソジメチルアミンが検出されたメトホルミン製剤の使用による健康影響評価の結果等について
○オンライン資格確認等システムの利用申請及びセキュリティについて（協力依頼）
○ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチンの供給見通しについて
○医薬品副作用被害救済制度eラーニングのご活用について（依頼）
○外国人患者受入れ体制整備支援オンラインセミナー開催案内について
○感染性胃腸炎の流行期に向けた感染予防対策の徹底について
○社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について（その2）（一部改正）
○新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いについて（その29）
○令和2年度「児童虐待防止推進月間」の実施について
○障害者支援施設等における新型コロナウイルス感染症対策強化事業の実施に関する地区医師会への周知協力について
○地域の医療機関向けオンライン説明会の追加開催の御案内等について（HER-SYS関係）
○発熱外来診療体制確保支援補助金の申請について(インフルエンザ流行期に備えた発熱患者の外来診療・検査体制確保事業)
○公立阿伎留医療センターからお知らせ
○公立福生病院新型コロナ感染による診療縮小について
○「医師の働き方改革に関する『トップマネジメント研修』開催のご案内」の送付について
○オキシコンチンTR錠5mg、同10mg、同20mg及び同40mgの医薬品医療機器等法上の効能・効果等の変更に伴う留意事項について
○令和2年度西多摩医師会インフルエンザ情報№1
○令和2年度第1回検案業務サポート研修会の開催について（多摩地域の登録検案医確保及び検案業務サポート事業）
○埼玉県との都県域を超えた周産期搬送体制実施方法（概要）
○母体保護法の施行いついて　一部改正について
○季節性インフルエンザ流行期における、かかりつけ医対応の目安(小児用)
○新型コロナウイルス感染症に関する検査体制に係る調査等について
○看護師の特定行為研修制度に係る「在宅領域における手順書例集」について
○「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業（医療分）」の東京都国民健康保険団体連合会を通じた申請について
○医療従事者・介護従事者の中で発熱等の症状を呈している方々について
○新型コロナウイルス感染症等感染防止対策実施医療機関
「みんなで安心マーク」の更なる周知について
○独立行政法人福祉医療機構による医療貸付事業融資制度利用希望者に対する個別融資相談会の開催について
○医療保険事務講習会の開催について
○「診療・検査医療機関」における「東京都発熱相談センター」からの患者紹介に係る対応のお願い
○新型コロナウイルス感染症にかかる検査料の点数の取り扱いについて
○「新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いについて（その30）」及び「新型コロナウイルス感染症に係る行政検査の保険適用に伴う費用の請求に関する診療報酬明細書の記載等について」の一部改正について
○オンライン資格確認、マイナンバーカードの保険証利用の普及に向けた加速化プランについて

○「交通事故で家族を亡くした子供の支援に関するシンポジウム」の開催について
○美容医療サービス等の自由診療におけるインフォームド・コンセントに関する説明用資材の改定について
○令和２年度生活保護法指定医療機関に対する一般指導の実施について
○「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）病原体検査の指針（第２版）」の周知について
○新型コロナウイルス感染症にかかる検査料の点数の取扱いについて（訂正）
○新型コロナウイルス感染症に係る行政検査におけるPCR検査の取扱いについて
○東京都無症状の妊婦への分娩前ウイルス検査費用助成事業にかかる対象妊婦から検査希望があった場合の対応について
○物資配布のお知らせ
○季節性インフルエンザとCOVID-19の検査体制について
○新型コロナウイルス感染症に関する自費検査を実施する検査機関が情報提供すべき事項の周知および協力依頼について
○年末・年始の発熱患者等の診療体制確保について
○HER-SYS 関係の利用に関するオンライン説明会の説明動画について
○乳児検診ビデオ（乳幼児保健委員会企画監修）の周知について
○年末年始の発熱患者等の診療体制確保へのご協力について（依頼）
○年末年始における診療報酬等の取り扱いについて
○令和２年度第２回JMAT講習会のご案内
○第19回西多摩医師会臨床報告会演題募集について
○令和２年度東京都かかりつけ医認知症研修参加者募集のご案内
○令和２年度 ぜん息治療講演会 開催概要
○感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律における新型コロナウイルス感染症患者の退院の取扱いについて（再周知）
○年末年始における診療報酬等の取扱い等について
○風評被害に関する情報提供のご依頼について
○令和２年度「医療保険講習会・事務講習会」DVDの送付について
○日本医師会生涯教育講座　2/6・2/11
○電話通訳サービスのご案内
○新型コロナウイルス感染症に係る診療・検査医療機関の受診時における被保険者資格証明書の取扱いについて
○日本医師会生涯教育講座1/28
○外国人患者への医療に関する事業一覧
○医療保険の手引き
○第３回医療従事者肝疾患研修会（武蔵野赤十字病院）
○年末年始休館のお知らせ
○第36回西多摩学校保健連絡協議会の中止について
○東京都看護協会訪問看護フェスティバル 1/23
○東京都難病・がん患者就業支援奨励金のご案内
○公立福生病院通常診療体制の再開について（第１報）

医師会の動き

令和２年12月18日現在

医療機関数	196	病　院	30
		医院・診療所	166
会　員　数	523	正会員	209
		準会員	314

会 議

11月10日　定例理事会
　　24日　定例理事会
12月８日　第２回西多摩地域脳卒中医療連携検討会
　　８日　定例理事会
　　18日　広報部会（会報編集）
　　22日　ICTシステム整備委員会兼にしたまICT医療ネットワーク協議会
　　22日　定例理事会

講演会・その他

11月５日　学術講演会
　　　～ Diabetes&Incretin Web

Seminar in 西多摩 ～
【講演】
演題：「実地医家にすすめる糖尿病注射療法
～週1回型GLP-1受容体作動薬が叶える病診連携～」
演者:東京医科大学八王子医療センター
糖尿病・内分泌・代謝内科
科長/講師 松下 隆哉 先生
【講演】
演題：「週1回投与のGLP-1製剤に対する期待
～医療者と患者さん、それぞれの視点殻考える～」
演者:（医社）一洋会 H.E.Cサイエンスクリニック
糖尿病センター長
調 進一郎 先生

6日 学術講演会
～ T2DM Forum in 西多摩 ～
【特別講演】
演題：「最新のエビデンスから最良の糖尿病治療を考える」
演者:東京医科大学八王子医療センター
糖尿病・内分泌・代謝内科
科長 松下 隆哉 先生
【Discussion】
演題：「欧米のガイドラインを日本人にも適応してよいのか?」
司会:高村内科クリニック/東京医科大学 名誉教授 植木 彬夫 先生
討論者：（医社）悠救会 波多野医院/東京医科大学地域医療指導教授 波多野 嗣久 先生
国立病院機構災害医療センター
糖尿病・内分泌内科 医長
榛澤 望 先生78 M

9日 保険整備会

9日 学術講演会（web）
演題：「西多摩エリアでの今後の地域連携の在り方を考える」
～地域医療における多職種連携を踏まえ～
演者：日本経営グループ メディキャスト㈱
厚生政策政策情報センター センター長 山口 聡 様

11日 学術講演会（web）
【特別講演】
演題：「心不全診療の最新トピックス
～ガイドラインから新しい治療まで～」
演者：（医社）潮友会 うしお病院
循環器内科
部長 加藤 真帆人 先生

17日 WEB講演会～ICT地域医療連携システムについて～

17日 学術講演会（web）
運動器疾患のバリアフリー活動
「かかりつけ医」研修
【特別講演】
演題：「高齢者のフレイル・サルコペニアと漢方薬」
演者：東京大学大学院医学系研究科 老年病学
准教授 小川 純人 先生

18日 学術講演会（web）
【特別講演】
演題:「フレイル・サルコペニアの予防対策 –超高齢社会における保健・医療の視点から–」
演者:桜美林大学老年総合研究所/ 大学院教授
国立長寿医療センター総長特任補佐 鈴木 隆雄 先生

19日 法律相談

25日 学術講演会（web）
～重症喘息の病態と臨床実態を探る～
【Keynote Speech】
演題：「イントロダクション:重症喘息について」
演者：青梅市立総合病院 呼吸器内科 部長 磯貝 進 先生
【講演】
演題：「重症喘息の最前線」
演者：独立行政法人国立病院機構
東京病院 呼吸器センター

呼吸器内科 医長 大島 信治 先生
26日 糖尿病教室 （参加申込者への講義内容資料の郵送による開催）
講義1：「糖尿病と歯・歯周病について」
講義2：「食物繊維について考えましょう」
26日 学術講演会（web）
【講演1】演題：「心房細動の最新マネージメント
～不整脈非薬物治療ガイドライン2018・不整脈薬物治療ガイドライン2020を踏まえて～」
演者：東京医科歯科大学 循環器内科 准教授 合屋 雅彦 先生
【講演2】演題：「造影CTを用いた左心耳血栓の評価に対する当院の取り組み」
演者：青梅市立総合病院 循環器内科 田仲 明史 先生
30日 学術講演会（web）
～疼痛治療を考える会～
演題：「 脊椎疾患由来の末梢性神経障害による 疼痛・しびれに対する治療戦略」
演者：札幌医科大学医学部 整形外科学講座 助教 黄金 勲矢 先生
12月1日 学術講演会（web）
～ T2DM Forum in 西多摩 ～
【特別講演】
演題：「糖尿病と心不全（とCovid-19）–a deadly intersection–
演者：札幌医科大学 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座
准教授 丹野 雅也 先生
【パネルディスカッション】
テーマ：今だから考えたい！糖尿病治療のUP to Date
パネリスト①DPP-4 阻害剤の立場から 樋口クリニック 院長
樋口 正憲 先生
パネリスト②SGLT-2 阻害剤の立場から 下奥多摩医院 古味 良亮 先生
8日 保険整備会
9日 在宅医療委員会Web会議
～西多摩地域コロナ禍における在宅医療～
1.「訪問看護ステーションにおける現状と課題」
～事業所におけるコロナ感染症の対応を通して～
東京都訪問看護事業協会ブロック会代表
指定訪問看護ステーションあきる台ケアサービス 栗原枝利子 様
2. 訪問リハビリテーション「それぞれの立場から」
日の出ヶ丘病院訪問リハビリテーション 所長 轟 正男 様
3. 訪問介護
青梅市訪問介護サービス提供責任者連絡会 会長 森田 香苗 様
4. 在宅医 ホームケアクリニック青梅 土田 直輝 先生
5. 歯科医「コロナ禍での訪問歯科診療」 小曽木歯科 井上 一彦 先生
6. グループホーム「コロナ禍での事業所の現状について」
（社福）ほうえい会 グループホームともだ 管理者 武田 慶光 様
7. 特養「特養に関する情報」
特別養護老人ホーム 麦久保園
施設長 窪島 裕也 様
8. ケアマネージャー「在宅介護支援の立場として・・・」
草花ケアサポート
管理者 日下部 浩二 様
9. 薬剤師「コロナ禍調剤薬局の訪問業務」 アイセイ薬局福生店
薬剤師 山本 真敬 先生
10. 療養型病院「療養病床でコロナ陽性者の侵入を経験した」
（医財）利定会 大久野病院 理事長 進藤 晃 先生
11. 西多摩保健所「西多摩保健所の状況」 西多摩保健所 感染症対策担当
12. 西多摩医師会・老健
西多摩医師会長 玉木一弘 先生
13. 行政

青梅市高齢者支援課・青梅市介護保険課
15日　WEB講演会～ICT地域医療連携システムについて～
17日　法律相談
17日　糖尿病教室　(参加申込者への講義内容資料の郵送による開催)
講義1:「糖尿病と足ケア（神経障害）について」
講義2:「バランスのよい食事にするには」
21日　学術講演会（web)
医療安全講演会　～新型コロナウイルス感染症について～
演題：「見慣れないものを見慣れたものに」
～一般診療における新型コロナウイルス感染症～
演者：東京医科大学八王子医療センター　感染症科
教授　平井　由児　先生

役員出張

11月12日　西多摩保健医療圏地域災害医療連携会議
16日　西多摩新型インフルエンザ等感染症地域医療体制ブロック協議会社会福祉・地域医療部会
19日　西多摩地域歯科保健推進検討会
19日　東京都地域医療構想調整会議勉強会
20日　地区医師会長連絡協議会
20日　東京都地域医療構想調整会議
24日　東京都地域医療構想調整会議「在宅療養ワーキンググループ」
12月7日　西多摩新型インフルエンザ等感染症地域医療体制ブロック協議会医療機関部会
18日　地区医師会長連絡協議会

【退会会員】（正会員）

氏　名　　神尾　重則　(死亡)
勤務先　　(医社）崎陽会　日の出ヶ丘病院

【入会会員】（準会員）

氏　名　　赤尾　翔太郎
勤務先　　公立福生病院
出身校大学　福岡大学　平成30年3月卒

氏　名　　二島　駿一
勤務先　　公立福生病院
出身校大学　日本医科大学　平成23年3月卒

氏　名　　木内　仁志
勤務先　　公立阿伎留医療センター
出身校大学　新潟大学　平成29年3月卒

氏　名　　久米　賢
勤務先　　公立阿伎留医療センター
出身校大学　山形大学　平成24年3月卒

【退会会員】（準会員）

氏　名　　外山　馨
勤務先　　(医社）長生会　成木長生病院

氏　名　　古味　良亮
勤務先　　公立阿伎留医療センター

氏　名　　坂井　暎太
勤務先　　公立阿伎留医療センター

氏　名　　宇井　貴彦
勤務先　　公立福生病院

氏　名　　矢嶋　知佳
勤務先　　公立福生病院

氏　名　　中山　宏
勤務先　　(医社）崎陽会　日の出ヶ丘病院

【法人化】

(新)（医社）あすく　まつむらこどもクリニック
　松村　昌治
(旧）まつむらこどもクリニック
　松村　昌治

【管理者変更】

(医社）崎陽会　日の出ヶ丘病院
(新）加賀屋　壽孝
(旧）神尾　重則

お知らせ

事務局より　お　知　ら　せ

保険請求書類提出

令和３年２月（1月診療分）　**2月8日（月）** 正午迄
令和３年３月（2月診療分）　**3月8日（月）** 正午迄
（締切日以前の提出も可能です）

法　律　相　談

西多摩医師会顧問弁護士　堀　克己先生による法律相談を
毎月**第３木曜日**午後２時より実施いたします。
お気軽にご相談ください。

◎**相 談 日**　**2月18日（木）**
　　　　　　3月18日（木）

◎場　　所　西多摩医師会館
◎内　　容　医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・刑事に関するどのようなものでも結構です。
◎相 談 料　無料（但し相談を超える場合は別途）
◎申込方法　事前に医師会事務局迄お申込み願います。
（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

訃　報

岡村　慶子 様（享年79歳）

福生市福生 886-4
岡村クリニック

院長　岡村　栄子 先生（ご母堂様）

去る令和2年12月7日 ご逝去されました。
謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

訃　報

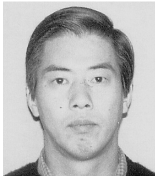
渡邉　時三 様（享年90歳）

羽村市五ノ神 1-2-2 2F
（医社）翠湖会　ワタナベ整形外科

院長　渡邉　哲哉 先生（ご尊父様）

去る令和2年11月20日 ご逝去されました。
謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

表紙のことば



『カトレア.ジェンマニー』

コロナ流行の折、家にいる時間が多くなりカトレアの世話を頻繁にしたため、今シーズンは花つきが良く楽しませてくれています。

大河原森本医院　森本 晉

あ と が き

あけましておめでとうございます。
2020年は、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、多くの人が苦しめられた年でした。たくさんの人が犠牲になりました。そして、東京オリンピックをはじめ、

多数のイベントが延期もしくは中止となりました。海外への渡航は大きく制限され、国内の移動も自粛要請がだされました。経済も大きなダメージを受けました。

新型コロナウイルス感染症を抑え込むことは容易ではありません。平穏な社会に戻るには、全世界での封じ込め対策が必要です。

海外では、新型コロナウイルスのワクチン接種が始まった国もあります。ワクチンの有効性・持続性・副反応は、今後の集計結果を待たないとわかりませんが、一日も早く、この感染症が終息し、平穏な社会が戻ることを願っています。

コロナウイルス感染症は、2002年に発生したSARS、2012年にはMARS、2019年にはSARS-COV-2と繰り返し発生しています。今回の新型コロナウイルス感染症が終息したとしてもウイルスは変異し、猛威を振るう可能性があります。今回の経験を生かし、次に発生する感染症の対応を今から考えておかなければなりません。

羽村市　小作駅前クリニック　奥村　充

一般社団法人　西多摩医師会　　令和3年1月1日発行
会長　玉木一弘　〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12　TEL 0428（23）2171・FAX 0428（24）1615
会報編集委員会　古川　朋靖
下村　智　土田　大介　鹿児島武志　進藤　幸雄　奥村　充
近藤　之暢　菊池　孝　三ツ汐　洋　馬場　一徳　小髙　哲郎
印刷所　マスダ印刷　TEL 0428（22）3047・FAX 0428（22）9993

1回の臨床検査で

救われる「いのち」がある。

臨床検査事業

臨床検査 / 遺伝子検査 / 予防医学 / 治験検査

医療情報システム事業

電子カルテシステム販売・保守

関連事業

食品衛生検査 / 環境検査 / 歯科検査

臨床検査は健康な未来への道しるべ

バイオとシステムで医療に貢献します

株式会社ビー・エム・エル

BML

http://www.bml.co.jp/

本　　　社　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3　TEL.03-3350-0111（代表）　FAX.03-3350-1180

BML総合研究所　〒350-1101 埼玉県川越市的場1361-1　TEL.049-232-3131（代表）　FAX.049-232-3132

生命の輝きをみつめ

〝いつの時代も、地域医療とともに〟

ひとりひとりの健康で豊かな社会生活を掲げ

地域に根ざした検査所として歩んできました。

高度な技術と最新の設備で地域医療の

さまざまなニーズに対応しています。

登録衛生検査所

株式会社　武蔵臨床検査所

〒358-0013　埼玉県入間市上藤沢309-8

TEL；04-2964-2621　　FAX；04-2964-6659

URL；http://www.e-musashi.co.jp